

# 平成31(令和元)年度保々中学校 学校アンケート結果と考察

内容	設問 ※ 設問に対する回答は、4(そう思う)、3(だいたいそう思う)、2(あまりそう思わない)、1(そう思わない)の4段階で評価	平均評価	4(そう思う)と3(だいたいそう思う)の評価の割合				考 察
			1年生	2年生	3年生	全体	
確かな学力	生徒 学校の授業はわかりやすい。	3.2	96.4	86.5	96.2	93.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の評価の「学校の授業はわかりやすい」が昨年度の89.5%から93.6%、「授業で学習したことは、将来の役に立つ」は94.5%から95.2%と増加している。しかし、「学校の授業はわかりやすい」の2年生が86.5%と低くなっている。</li> <li>一方、保護者の評価は76.2%から71.9%へ下降した。「1(そう思わない)」と「2(あまりそう思わない)」を合わせると30%近くになる。</li> <li>生徒の評価は、全体としては高い数値となっているが、2年生の課題や「わかりにくい」と感じる生徒への手立ても含め、継続して授業改善に努めていく必要がある。今後もこれまで同様、学習の意義や必要性等を、全教育活動を通して生徒たちに考える機会をつくっていく必要がある。</li> </ul>
	生徒 授業で学習したことは、将来の役に立つと思う。	3.4	96.4	94.2	94.9	95.2	
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な学力を身につけてきていると思う。	2.8				71.9	
	教師 学校は、生徒の学力の向上を目指して適切な指導を行い、成果をあげている。	3.0				95.2	
学習評価	生徒 先生の評価によって、勉強についての自分の長所や課題がわかったり、やる気が出たりする。	3.2	87.5	86.5	89.7	88.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価の三機能は「生徒の自己学習力の向上」「外部への説明責任」「教師による指導と評価の一体化」である。このうち、「自己学習力の向上」にあたる生徒の評価は昨年度の81.5%から88.2%、「説明責任」にあたる保護者の評価は93.0%から95.6%と上昇した。学習評価についてはすべての学年、保護者から安定して高い評価が得られている。</li> <li>一方、「指導と評価の一体化」にあたる教師の評価が95.0%から90.5%と下降した。教師自身が生徒の実態を把握し、「評価」することを通して、生徒のやる気を引き出し、生徒の「自己学習力」をつけていくことが重要である。今後も引き続き、評価のあり方を見直し、一層の教材研究、授業研究の上にたち、「指導と評価の一体化」を進めていく必要がある。</li> </ul>
	保護者 学校(先生)は、お子さんの学力や学習状況、努力の様子等について保護者に適切な説明を行っていると思う。	3.2				95.6	
	教師 学校は、評価結果をもとに、指導をやり直したり、教材を工夫したりするなど、指導と評価の一体化に取り組み、成果をあげている。	3.1				90.5	
キャリア教育	生徒 自分にはよいところがあると思う。	3.1	85.5	74.5	79.7	80.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の評価割合は、すべて昨年度を上回る結果となった。</li> <li>「自分にはよいところがあると思う」では昨年度77.1%から80.0%、「自分は、(まわりの人たちから)自分の存在や思いが大切にされていると思う」は78.8%から86.3%、「自分は、将来の夢や目標をもっている」は64.7%から78.0%、「自分は、自分からあいさつしている」は89.1%から92.0%、「自分は、ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている」は83.1%から87.7%、「自分は、時間や期限を守り、授業を大切にしている」は88.1%から89.8%となった。</li> <li>保護者の平均評価も60.9%から66.9%と上昇したものの、「1(そう思わない)」と「2(あまりそう思わない)」を合わせると依然として33%ほどある。</li> <li>一方、教師の評価は100%から85.0%と下降した。昨年度の生徒と教師の評価の大きな差があったことにより、「キャリア教育」にこれまで以上にこだわり今年度、取り組みを進めてきた。安定的に高評価は得られてはいるものの、キャリア教育は本校が保育園、幼稚園、小学校、地域とともに大切にしている取り組みの根幹であり、現状の取り組みに満足することなく、取り組みをすすめていかねばならない。ここ数年、キャリア教育を推進する上で基盤となる「あいさつ」「掃除」「時間」の指導に重点的に取り組み、教師も生徒も意識して生活できるようになってきている。今後もこれらの取り組みを常に見直ししながら、継続して取り組んでいくことが重要である。</li> </ul>
	生徒 自分は、(まわりの人たちから)自分の存在や思いが大切にされていると思う。	3.2	92.7	90.0	79.5	86.3	
	生徒 自分は、将来の夢や目標をもっている。	3.1	78.6	68.6	83.5	78.0	
	生徒 自分は、自分からあいさつしている。	3.5	94.6	86.5	93.7	92.0	
	生徒 自分は、ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている。	3.2	89.3	82.7	89.9	87.7	
	生徒 自分は、時間や期限を守り、授業を大切にしている。	3.3	89.3	88.5	91.1	89.8	
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して将来の進路や今後の生き方について考えるようになってきていると思う。	2.8				66.9	
教師 学校は、『育ちのプログラム』と関連させた重点・目標数値を学校づくりビジョンに定めて重点的に取り組み、成果をあげている。	3.1				85.0		
人権・道徳・特別支援教育	生徒 自分は、いじめや差別は絶対にいけないと思う。	3.9	100	98.1	98.7	98.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価の「いじめや差別は絶対にいけないと思う」の昨年度98.0%から98.9%となった。ここ数年高い数値を示しており、本校生徒は前向きに人権のことを考えていると言える。</li> <li>「学校へ行くのが楽しい」は82.5%から89.3%となった。3年生が82.3%と低く、学年が上がるにつれ徐々に低くなっている。3年生の受験に向かう不安など、自分の現実を肯定的に受け止められない現状が見受けられる。学力についても人間性についても未熟な自分を自覚し、それを受け入れ将来に向けて力強く生きていこうとする意欲が持てるようになっていくことがこの時期ではとても重要なことである。その実現に向けて、授業や学校行事、部活動等のあらゆる場面で生徒たちが学ぶ機会をつくっていく必要がある。</li> <li>保護者の平均評価は2つの質問に対して、91.4%⇒87.0%、85.7%⇒83.3%と若干下降したものの、ここ数年、一定の評価を得られている。今後も保護者に向けてたよりやホームページ等を通じて、生徒たちの成長の様子を伝えていく必要がある。</li> <li>教員の平均評価はここ数年、高い数値を示しており、教師自身が自分たちの指導に対して一定の手ごたえや充実感、生徒の変容などを感じてのことであると考えられる。</li> </ul>
	生徒 自分は、学校へ行くのが楽しい。	3.3	98.2	90.4	82.3	89.3	
	保護者 お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な人権感覚や道徳性を身につけてきていると思う。	3.1				87.0	
	保護者 学校では、どの生徒も自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加していると思う。	3.0				83.3	
	教師 学校は、生徒の人権感覚や道徳的心情、実践力を育てるために適切な指導を行い、成果をあげている。	3.4				95.0	

内容	設問 ※ 設問に対する回答は、4（そう思う）、3（だいたいそう思う）、2（あまりそう思わない）、1（そう思わない）の4段階で評価	平均評価	4（そう思う）と3（だいたいそう思う）の評価の割合				考 察	
			1年生	2年生	3年生	全体		
規律ある生活習慣・生徒指導	生徒	自分は、学校のルールやマナーを守って生活することを心がけている。	3.5	98.2	94.2	96.2	96.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の評価は昨年度94.5%から96.3%、保護者の評価は90.4%から86.3%となった。昨年度の教師の評価が55.0%とかなり低く、大きな課題となっていたが、今年度は85.7%と高い評価へと戻った。</li> <li>学校において、昨年度同様、今年度も生徒指導面ではほとんどの生徒が落ち着いて学校生活、家庭生活を送っており、大きな問題はない。しかし、多くの生徒がルールやマナーを守って生活することの意義を理解せずに受身的に生活している現状が多くみられた。特に今年度においては、その点に着目し、生徒たちに向けて、将来、社会で生きてはたらく力をつけるために取り組んでいることを、あらゆる場面で投げかけてきており、徐々にではあるが生徒がそのことを意識して生活するように変化がみられてきている。そのことがこの結果に表れてきていると考えられる。今後も「あいさつ」「掃除」「時間」に重点的に取り組み、生徒指導の面でも成果が得られるよう、取り組みを継続していく必要がある。</li> </ul>
	保護者	お子さんは、学校の指導を通して中学生として必要な生活習慣やルール・マナーを身につけてきていると思う。	3.1				86.3	
	教師	学校は、生徒の基本的な生活習慣の確立や規範意識・自立性の育成に向けて適切な指導を行い、成果をあげている。	3.0				85.7	
学校行事・学級活動	生徒	自分は、班・学級活動や生徒会・委員会活動、体育祭や文化祭などの学校行事に積極的に取り組んでいる。	3.5	96.4	84.6	89.9	90.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価が昨年度91.5%から90.4%、保護者評価が91.4%から91.8%と、ここ数年、生徒、保護者の各平均評価は安定して高い。毎日の学級活動や生徒会・委員会活動も安定して活動ができており、概ねよく理解されていると言える。</li> <li>一方、教師の評価が94.7%から85.7%と下降しており、高い評価ではあるものの、課題を感じていることが伺える。体育祭や文化祭、修学旅行や職場体験学習、自然教室等は体験的な学習として極めて重要であり、ほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいるものの、学級活動や生徒会活動等での自主性の面で物足りなさを感じているところが現状にある。今後も、それぞれの活動の内容の精選と充実を進めつつ、自主性を育てる指導を継続しよりよいものを目指していく必要がある。</li> </ul>
	保護者	お子さんは、学級・生徒会活動や学校行事を通して友だちとの望ましい関係を深めたり、自主性、協力性、公共心などを身につけてきたりしていると思う。	3.2				91.8	
	教師	学校は、学級・生徒会活動、学校行事等を通して仲間づくりや生徒の自主性、協力性、公共心などを育成するために適切な指導を行い、成果をあげている。	3.0				85.7	
部活動	生徒	自分は、学校の部活動に積極的に参加している。	3.5	96.4	84.6	85.0	88.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価は昨年度88.4%から88.6%、保護者評価は87.1%から87.5%と、ともに平均評価は安定して高い。多くの生徒が意欲的に部活動に取り組んでいることが伺われる。</li> <li>一方、教師の評価が70.0%から66.7%と、ここ数年下降してきており、部活動ガイドラインや教師の総勤務時間削減の動き等により、活動時間が減り、生徒たちに充実した部活動が提供しきれない教師の思いが表れていると考えられる。部活動のあり方を見直していく中で、学校として仕事の精選や教員の仕事分担の見直し等も行いつつ、今後も活動内容の充実に向けていく必要がある。</li> </ul>
	保護者	お子さんは、学校の部活動を通して自主性や協力性、責任感や連帯感、わがや強さなどを身につけてきていると思う。	3.1				87.5	
	教師	学校は、部活動を通して自主性や協力性、責任感や連帯感、わがや強さなどを育成するために適切な指導を行い、成果をあげている。	2.8				66.7	
教育相談	生徒	学校には、自分の気持ちや思いを聞いてくれたり、悩みや心配ごとなどを相談できたりする先生やカウンセラーさんがいるので安心できる。	3.2	85.5	82.4	84.8	84.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価は昨年度82.8%から84.3%、保護者評価は93.5%から86.7%、教師は100%から95.2%となった。生徒の数値が上がっており、安定的に高い数値が示されていることは喜ばしいことだが、個々に見ると、「あまりそう思わない」「そう思わない」とする割合が依然として16%近くあり、今後も相談機会の拡充や効果的な相談に向けた改善が必要である。日頃から各学年とも担任等が「あいさつ」を含めて共感的姿勢による声かけや生徒との会話の機会を増やす努力をしてはいるものの、安心して相談できないと感じる生徒は存在している。今後も教育相談体制や相談の在り方等の検討をし、少しでも生徒が相談しやすい状況をつくっていく必要がある。</li> </ul>
	保護者	学校（先生）は、お子さんの思いや悩みなどを聞き取ったり、相談したりするしくみや雰囲気や適切に整えていると思う。	3.2				86.7	
	教師	学校は、生徒理解のために適切な教育相談を行い、成果をあげている。	3.3				95.2	
危機管理・安全な生活	生徒	自分は、病気やけが、災害や事故、犯罪の被害などにあわないようにするため、日頃から健康や安全に気をつけて学校生活を送っている。	3.4	92.9	92.2	96.2	94.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価は昨年度91.0%から94.1%、保護者評価は98.4%から96.3%、教師評価は95.0%から90.0%と、それぞれ平均評価は安定的に高い数値を示している。これは年3回実施する避難訓練や、生徒や保護者が日常的な病気やけが、事故発生時の対処等が適切に取り組まれていると感じられているからと考えられる。今後も日常的な危機管理をはじめ、防災教育の充実を図っていく必要がある。特にここ数年、各地区の自主防災訓練への中学生の参加を促しているものの低調に終わっているため、地域の一人としての自覚を促す指導と合わせて、この取り組みを充実させていく工夫が必要である。</li> </ul>
	保護者	学校（先生）は、健康で安全・安心な学校づくりに努めていると思う。	3.4				96.3	
	教師	学校は、生徒の健康で安全な生活のために、必要な組織や体制を整えとともに適切な指導や訓練等を行い、成果をあげている。	3.3				90.0	
地域との連携	生徒	自分は、保々地区が好きだ。	3.4	98.2	88.5	85.9	90.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒評価は昨年度83.5%から90.3%、保護者評価は93.5%から88.1%、教師評価は95.0%から100%と、ともに安定して高い。学校だよりの発行や学校ホームページの日常的な更新、生徒の様子や思いなどを掲載した学年通信を継続的に発行していたりしていることが高評価につながっていると考えられる。今後も地域との関わりを大切にしながら、生徒の「自分は、保々地区が好きだ」という意識を持たせていく必要がある。</li> </ul>
	保護者	通信・たより・ホームページ、電話連絡、家庭訪問、オープンデー、保護者懇談会などによって学校やお子さんの様子がわかりやすい。	3.2				88.1	
	教師	学校は、保護者や地域に学校や子どもの様子を知らせるために適切な取り組みを行い、成果をあげている。	3.5				100	